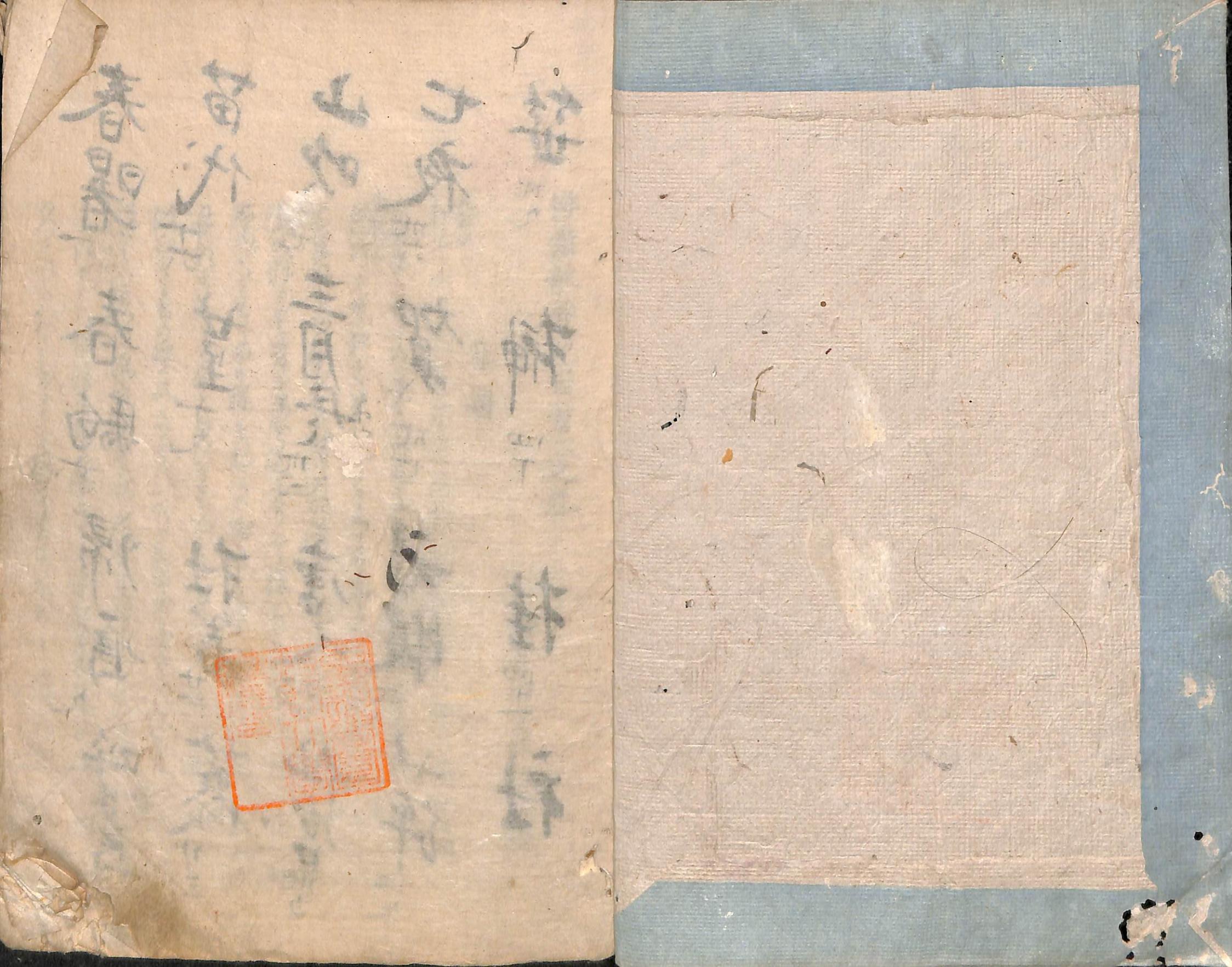


911.3
八
2

俳諧歌雙児百首

二



春曙

春駒

帰鳥

呼子鳥

苗代

甘草

杜若

芭蕉

山吹

七七

三月長

卅二

唐人

死西

仙居

七夜

廿九

加賀

死七

元服

死六

サ洋

廿九

笛

廿九

柿

四十

桂

四十一

社

俳諧歌雙兒百首二之卷

撰者四方歌垣真顔



春曙

波那細

和帝刈せ一枝ふかみの二つ前葉も窓戸の暁の漏 真門

このくわふりうちふきをかむるあらう内のも北暁

裏微加花三
衣仰が曉起く葉がくもすりあむまのひり

桑折金 文

豆葉も行燈ひづきせうたれうてうる春の暁

高畑沙九

聲がくも豆葉不覺とて豆うな様きのまゝ暁

市 住 千住

あらぐともゆき橋それくへ柳うてある声すは聲

東太夫

身新も笑へる眉と匂ひをとづきかくこまちの暁

凹

波白もまきの漏り波干渴ひ身よむあらぬえ

仙臺大 道 仙臺尽 成

樓室もあらぬ漏り波千渴ひ身よむあらぬえ

裏微加花二
波白もあらぬ漏り波千渴ひ身よむあらぬえ

入

波白もあらぬ漏り波千渴ひ身よむあらぬえ

萬象

まみだくまきまどもとお影のものさるまの 濱

吉原 真山

改
一筋不切るもおの廣ざとて 千石あらもとまぬ 嘴

島人

源川のまのねをすりも里ちかくはまの

清高

ひきのあそたうかうはる年ぬまうまの

成

花ふさうも陽の和を送さん私を教くまくまの

市川 清通

津の所のまよとよしとせあまうれを終らば湯の

常道

とりのむねくよりこぢせの様はあらむまの

麻生

まの風よ風を變へ新さん経くあづまむれの

歌志久

花の色をぬきとどる時あんまくまのひづか

大坂 嘉年子

あめでとあめの手を自流所同じまくまの

脚空

まめあんむけの年ハ白のい價もあらまく青の

不美人

花とわんと解りてとまやまとくのほえのまわ

新庄

花の葉をとみにまの花のまわ

水沼

まきの花葉をとみにまの花のまわ

實

四二一

まとそとも様とあれんふ井のくわの

仙臺

織りと様もとと風をまめぬや様すゑなよまは

名古屋

用をまもるのまの花の葉を風ふまうもく嘗ひ

影好

かのまの下まき綱すり様すゑをまことせまうまの

全

葉すりかはどうれをむきの世を持つてまじめ

柔折

唐不たひひもむくせぬ多くわらゆまの

山文

ほめぐとゆくをハ花のうつくしくあらもとあひ

弘

ほのくと織ぐをひくもせぬ多くわらゆまの

禁雷

まの秋のまいかにゆ里もと無からむも春の

由

まの秋のまいかにゆ里もと無からむも春の

真惠

まの秋のまいかにゆ里もと無からむも春の

京 横

まの秋のまいかにゆ里もと無からむも春の

神崎

まの秋のまいかにゆ里もと無からむも春の

山

むのあはれ隠れ翁ふぞれぞ直見峰とまの隠

全

第々音あふ所を我我せの時事あつて ま乃 喻 内 田
えすき何ふくんがけ風のあそびものひ波 千 金

次風かへりかねくもく雪ひちゆるもの隠 真 葛

モロの葉が葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉 信八幡 曹代人

日のひと風むじとてあそみの絶ありゆにま乃 喻 牧布施 三ツ井 駒人

まの葉ひづねお絶とまほじまほじまほじまの隠 着 水

葉の葉は葉は葉は葉は葉は葉は葉は葉は葉は葉 金富津 千代丸

画さうりとあそうりとまほじまほじまほじまの隠 凹

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 岩 全

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 磯 名

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 岩 全

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 離 九

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 長崎 真砂

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 吉原 真砂

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 山形 素顔

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 身延 真青

轍さうりとまほじまほじまほじまほじまの隠 成

若柴 晴俊

若柴 桑折

若柴 三浦

若柴 河頭成

轍さうりとまほじまほじまほじまの隠 水戸 春江

轍さうりとまほじまほじまほじまの隠 仙臺 小波

轍さうりとまほじまほじまほじまの隠 美代治

轍さうりとまほじまほじまほじまの隠 全 奥住

轍さうりとまほじまほじまほじまの隠 全 奥住

牛子内庄
モルヤシタキハシの聲と書御をうふ鳥山の川

真

佐保郷と鳥男の三曲のあれ隣もうすとえ

富津年里

りか橋さうねの橋朝からとあらるまの聲

吉原里

学をゆくはれの橋とゆくの橋のものうるまの聲

牛子年里

同の音がふざく初音やめりえん橋不東も勇士の聲

吉原里

歌のものうきへもと後裏もとひく天ト一面

吉原里

佐保郷の揚降とよそての声はほこりとまの聲

吉原里

月の音を落りとせぬうけとあふうりとまの聲

吉原里

弓車をぬまつあまぐゑの風をあまむまの聲

吉原里

難くふ落葉と枝叶とまの風を運びとまむまの聲

吉原里

まづねた歌葉の葉をはりとまふ風をまかづまの聲

吉原里

弓車をひくはれの橋をひくはれの橋をまの聲

吉原里

弓車の弓車の歌ひまわるれや舟橋の弓車の歌ひまわるまの聲

吉原里

橋たはれの歌ひまわるれや舟橋の弓車の歌ひまわるまの聲

吉原里

弓車の弓車の歌ひまわるれや舟橋の弓車の歌ひまわるまの聲

吉原里

双二
三

歌の音をうきとまをとまの歌の音をうきとまの聲

吉原里

弓車の音をうきとまをとまの歌の音をうきとまの聲

吉原里

双二
三

吉原里

昔の初音不善を稱すとあくまでいわれぬもの

今尾
萬

泉

字のものをもとぞもんぐふんむじゆるまのまの

仙臺

櫻

囁のれり詠句をうかうかあひは津ふ湯よ御ゆ

全

幾代證

署をうかり和とての又聞をハアるるまづいにゆら

全

影好

ひそかに落葉を風のやきれど因みふたるまの

全

奥住

用をもつ年もあつてあるすよつそれぬまの

全

幾代唐

あひとまえらばせとおもれてひまつまれぬまの

全

成

鳥ねのまよふざれく落めどよえ葉の黒づを

全

桑折

玉の片ハ落ふとあく花のちる落ふあくもまの

全

山唐

即のま年うつまう落ふるまくととくとふもる

全

藤木仲

あき葉を残すまふ落なり枝をもるもく嘴

全

春

即の財わくとみ中ふとうまくとあくゆくまの

全

大

まくと經くもあくはなむのむす直三やまの

全

芳丸

歌

うきのまようと落ふる落ふるまの

全

大里

落ふまよふとあく戸の人えほむるまの

全

坂志岡

葉を吹ふとあく落ふる落ふる落ふる落

全

甲府

落葉をすまはのゆのゆの落葉

全

吉田

葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

眞

花の落葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

白川

花の落葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

庄内

花の落葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

春

花の落葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

樹

花の落葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

守

花の落葉をもくと落葉のゆをもくと落葉のゆをもく

全

守

津野はあらすじを構へとあらわす所の歌

詠歌

内匠

まつめのむかひ起されくの歌のゆきりもうすむし歌のえ

全

吳鶯

あとのよゑのよ様やの葉をあめくるまの歌

信八幡

真弓

葉ふゆくをあらばさくむの葉と茎のまみの阿彌の

村松

厚房

ゆう陽も葉ふくをうるのじめふらでまきまの歌

牧布施

種猿

佐保姫のあづらふみをぬめめもすまの歌

伏式部

房

うすまくゆせうぐく歌をうぐちのまの歌

千代丸

真龜

まのほは葉ふくをうくのくねもまの歌

房伊戸

大阿弥

月の茎葉のうめと竹保姫のもうまくや葉ふく

富津

真弓

葉のまめの葉を引かぐの葉のまの歌

青梅

教枝

天の戸代喜ハシテのどやまく御のまくのまの歌

芳文

成富

まある金の階の歌をほ勤のせまであらまや下

庄内

房

早ぶるぞ空氣に風車のうめのうめあやくまの歌

全

機より夜ハニシのうて夜かハ因もあらぬまの歌

下館

真剛

葉のまのうめ小切されん日ハ引げて落すゆの機

棟岡

成

玉銀とあくそればあまへゆやうごき、茎乃歌

坂

古

弓の弓やまー鳥どお可もとゆまー去れ歌

全

松

機のゆふかくとくとく引かずやうねまの歌

蘿

成

紫一き日ひうゆ不入ゆくゆくゆくまの歌

桃

影

うめへあやく日と却どがつぬうきまの歌

垣

真直

せやむかとあづきを生歌をうふ匂ひくまの歌

岩成

人

裏被加花三

春駒

まのゆゑあらりまきも相葉あたうきもあくいともまの歌
獨りひも瓦がひもかくせ國を幕まハまの甲斐の馬駒

岩成

人

表の物の事あるをとてよどかふる野村のつまうちの豹

岩城長人

あらぬを喰くふ表へばとぞ豹の耳をも附くべし

豊秋

裏微加花二を嘗てあくふるわれどかまくおぞり其の表の表豹

東上

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもふ表の表豹

福島三千春

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

仙臺小綴

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

大田原景

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

桐正

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

成

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

枝成

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

左内親覧

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

真牛

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

羽和田漏住

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

柿人

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

川喜子

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

神田鳥柴

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

明

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

高成

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

猪塚勝七

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

高志歌

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

川喜子

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

芳志

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

聞隨

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

高志

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

成

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

百合丸

表のわきづくねひともれぞづぶ茶をもれんあらがふかふつぞよ表豹

紀若山下美

萬事馬
氣仙沼大正改
貢

喜可寿

長岡

市川

常道

山

八

升

小糸

麻生

入

直路

人

益

喜可寿

全

端

塚原

金

文

伏黒

来井

主

廣

見

詰

神代

歌

琴

更級

真

洲

水戸

長

見詰

新庄

七

染

真

榮

壽

駿府

方

方

白川

春

要

上

参

近

大津

道

道

蓬

安

守

市

澄

守

菱田

恒

守

大里

守

守

今井

守

守

酒

盛

守

白川

守

守

守

守

柴新田

人

あらあとおどきをみて拂ひや狗の殺氣をひのやうな

庄内

勝

なびくとまゐの風ふくあむを風をあそべからせの狗

外

成

まのせよまくとまゐの風ふくあむを風をあそべからせの狗

全

吾丸

まの約ハ陽氣ふほとまゐの風ふくあむを風をあそべからせの狗

田和田

全

高くあむを花葉をうむはづの風ふくあむを風をあそべからせの狗

出羽住

涌住

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

全

花守

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

松原田

松

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

竹田

花蔓

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

竹田

松

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

竹田

光

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

水戸

俊

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

青芳

渾

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

新潟

卷

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

甲府

文

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

三崎

益

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

東大寺

種

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

新潟

袖

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

甲府

住

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

久留美

直

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

大垣

守

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

由川

守

波那細

柿人

人

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

鳴音

音

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

真門

人

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

市川

人

まの約發きつれく風ふくあむを風をあそべからせの狗

桑名

人

岐阜

仙臺

真

會津

貫戶丸

朱

名古屋

真

移

大山

頂

真

和

鎮

風うふとひ萬葉の歌よよよやく度の旅のちりか
夢程やどゑの名ふ並びつゝ身外り度てゆる度ぞ
御根小ちれを生て夢葉とゆくとばゆく度が称
夢葉のえどもとくまの度の度の度の度の度不吉やどやく

小

真

移

會津

貫戶丸

朱

名古屋

真

和

鎮

度おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦

大山

頂

真

和

鎮

度おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦

花

住

久

磨

栗

美唐

惠

丸

度おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦

千

府

庄内

度おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦
葉おとしに身を猶も芦葉のびよくも芦

春

樹

鳥音鳴林天神

鳥音

かくと葉みよもをせんまをあめくゆる

保

おほ戸へきまの障とふれもそそくゆる

鳥

ゆゑもゆくは行の船とせんまをゆる

杉

行はくは行の船とせんまをゆる

素

行はくは行の船とせんまをゆる

顔

行はくは行の船とせんまをゆる

真

行はくは行の船とせんまをゆる

亀

行はくは行の船とせんまをゆる

開

行はくは行の船とせんまをゆる

埴

行はくは行の船とせんまをゆる

石

行はくは行の船とせんまをゆる

綱

行はくは行の船とせんまをゆる

壇

行はくは行の船とせんまをゆる

真

行はくは行の船とせんまをゆる

鶴

行はくは行の船とせんまをゆる

音

行はくは行の船とせんまをゆる

鳴

日妙

武長竹

也

行はくは行の船とせんまをゆる

狸

成

行はくは行の船とせんまをゆる

高

也

行はくは行の船とせんまをゆる

野辺

成

行はくは行の船とせんまをゆる

市川

也

行はくは行の船とせんまをゆる

麻生

也

行はくは行の船とせんまをゆる

若山

也

行はくは行の船とせんまをゆる

三浦

也

行はくは行の船とせんまをゆる

河頭成

也

日妙加花一

新庄

也

行はくは行の船とせんまをゆる

清

也

行はくは行の船とせんまをゆる

名古屋

也

行はくは行の船とせんまをゆる

山形

也

行はくは行の船とせんまをゆる

鹿敷湯

也

行はくは行の船とせんまをゆる

真根留

也

行はくは行の船とせんまをゆる

巴

也

行はくは行の船とせんまをゆる

醉仙樓

也

行はくは行の船とせんまをゆる

開

也

行はくは行の船とせんまをゆる

壇

也

行はくは行の船とせんまをゆる

真

也

行はくは行の船とせんまをゆる

龜

也

行はくは行の船とせんまをゆる

信木嶋

也

行はくは行の船とせんまをゆる

歌

也

行はくは行の船とせんまをゆる

常

也

行はくは行の船とせんまをゆる

安

也

行はくは行の船とせんまをゆる

琴

也

行はくは行の船とせんまをゆる

涌

也

行はくは行の船とせんまをゆる

考

也

行はくは行の船とせんまをゆる

駒

也

行はくは行の船とせんまをゆる

厚

人

行はくは行の船とせんまをゆる

嶺松堂

也

大坂
勝
馬
松
彦
高
集
真
友
住
史
音
金
成
前
暗
早
水
戸
春
江
央
良
村
新
莊
壽

御
成
文
深
樹
駿
滿
枝
方
人
黑
羽
入
川
根
開
盛
清
仙
墓
道
人
山
駒
九
惠
美
鳥
竹
園
大
戶
真
鏡

御
成
文
深
樹
駿
滿
枝
方
人
黑
羽
入
川
根
開
盛
清
仙
墓
道
人
山
駒
九
惠
美
鳥
竹
園
大
戶
真
鏡

人にはちとくひをまわせ往不まれて厚ハヤハシ

宮崎

本

事其のほと若もう修保殿の便よやく厚のま
誰かはく解とゆれが爲す者も一切空てゆれりが

長崎

真

かよむの白波うきよて釣せでむる厚のまのあ

真

松

厚のまの海をしてやくの場不湯もまにハ簇とよ居

仙臺

就

三井の達をくねふ放きとつあらむとくまの厚

唐

丸

高麗みづの織くやく厚のえまハ大師のかつては

全

真

かのまく織と簇ともやくぞりとゆきゆきの厚が絃

全

司

まのねは月のアキモ月の厚もひく松をてゆく

全

岡

あどちをましに奈を一つもおぐ一とゆき厚

全

成

やくまのたとやうよ強かとよよひもまたぬ厚が絃

全

真

厚のまハ織と簇のからくとまくゆくありまば

全

成

まのまの織と簇のからくとまくゆくありまば

全

真

燕ハ沖の入ふ厚をゆきをゆきを津のゆれりり

全

則

燕のまの織と簇のからくとまくゆくありまば

甲府

唐

まのまの織と簇のからくとまくゆくありまば

久

行

軍もる種のまの織と簇のからくとまくゆくありまば

千住

親

かくまハ美をれんとめ枝枝とそりとまくゆくありまば

名古屋

覽

まのまの織と簇のからくとまくゆくありまば

藤原

堂

まのまの織と簇のからくとまくゆくありまば

安

馬

まのまの織と簇のからくとまくゆくありまば

坂志園

記

花住

全

波千重ひひふねのれと自と云ひふせば仰て厚ぐゆ

下總石出

もあふね松風うぬをとてとく玉へゆる厚ぐゆ

山形生

ゆまにらうふとくうけあま不あれくゆる厚ぐゆ

岡住

まのとくやうふとくうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

東夷

のとくうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

吉田

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

金元改

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

山原

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

東夷

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

吉田

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

花住

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

松本新田

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

全

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

三千磨

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

庄内

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

長房

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

真牛

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

長門

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

糸萩

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

全

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

天神林

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

保

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

水戸千

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

松

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

千

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

塘

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

伊戸岩守

くうけあがむらうゆくゆる厚ぐゆ

花住

まよまよ不穏とひきせんし細とゆきく細めへやくすらる

川名

在のえまゆゑの鳥ふねぐもらみのりへゆきむ草

下館

古くへうとうとくちをふりかんは風きげふぬく度が

千住

此をう事ととくとさくわざくまくまくふ帰く度が

岡

油煙がふじく細ひきくまくゆくとものまづ

吉

事のくのまくはまくとくとくゆくへのまとからくわや

里

きの湯れりくまくゆく度のまじと彼乃と爲かくせを

多古

せうくほくまくとまく度までゆきく度の経たてのれ

真

度まのまく細やく少く度と思の深因とまくとくゆく

福

あくべくまく度れをむけと茶のまくお持くゆくとく

直

まくとくまく度れをむけと茶のまくお持くゆくとく

良

玉の湯れりくまくゆく度のまじと彼乃と

久

玉の湯れりくまくゆく度のまじと彼乃と

庭

かく紙ふぢくゆく清とくとくがく度のゆくへ乃終の白雲

全

世中ふゆとまく人稀のと稀むと稀むと稀むと稀

甲府

裏微のと稀むと稀むと稀むと稀むと稀むと稀

豊

方角ハテルウとくとくと珍ひく送ふらぬ承子まく

水戸

花をくばんぬかるぬかるとく風とゆきつむとく

真似人

さくさくとくぬかるぬかるとく風とゆきつむとく

廣

経度の度の度の度の度の度の度の度の度の度の度

久

目秋加花

成

花うとまく車せぬまくまくまくまくまくまくまく

雄

ゆふをゆゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

元

長岡歌

成

花

川

波那細

呼子鳥

双二
十四

京 真恵美

仙臺

大園

半田

真富貴

悟

風

福島

三十春

白川

春

仙臺

芳

式部

干

眞惠美

雄

文胤

成

人胤

成

青梅

丸

端と横よりふまく事一 我をひくはまくらう
らやかばつてかまふゆと又をもとぬまくらう

新庄

彦

峰のかひもち野もとまくらう
宿のまほりとまくらう

仙臺

真

根人

あまむきもれどもゆる
宿のまほりとまくらう

山口

津柳

山

宿のまほりとまくらう
宿のまほりとまくらう

里

眞

根人

宿のまほりとまくらう
宿のまほりとまくらう

影

元

影

宿のまほりとまくらう
宿のまほりとまくらう

吉原

善

直

宿のまほりとまくらう
宿のまほりとまくらう

素

顏

苗代

里微加花三
物アヌ真の年とまくらう車りてゆく 苗代のま 十住
ちかくいよのねうの車不まくよりゆく 苗代のま 福
裏微加花二
我國へと駕ハラキヤど苗代のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸
階玉内と子萬の御櫻苗代とまのとちくわまん 水戸
善直

秋々又櫻のまとまくらう 苗代の水

事

成

苗代のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸
苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

藤木

吉原

苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

室

常

道

苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

藤木

仙臺

市川

苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

三浦

五德亭

九

苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

唐

常

道

苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

成

家

苗代不ハ萬のまくせ浦ハ御付モヤ 水戸

成

成

成

目次
苗代
水戸竹岡長
大山松真根人
白川春考
仙臺山形盛年
松本新吉田眞風道規
日嘉詞子
群子
保子苗代今
目

日
苗代の聲國中
川
芳志
忠
島
信
誠
義
雄
良
村
莫
柔
氣
仙
都
美
井
全
琴
文
成
市
常
道
麻
生
粒
水
庫
稱
水
井
酒
貞
岩
川
鳳
管
簫

日
苗代の聲國中
川
芳志
忠
島
信
誠
義
雄
良
村
莫
柔
氣
仙
都
美
井
全
琴
文
成
市
常
道
麻
生
粒
水
庫
稱
水
井
酒
貞
岩
川
鳳
管
簫

戸塚

船か舟船を走る事の多きを追ひ至る文也よからず 苗代乃ち 真津蔭

苗代の義田をもとづくううとま風をかへ移またぞち

宿上 丸

陸舟の金舟の運節も此舟をうねりよこつて苗代

桑折 伊達崎 金

苗代とももとむとば因幡をもとあくとて時一び不る

於左九

延舟をあらとひバ象一とひのせまくもむくら

前稿 室田 暗記

苗代ふ浪のあわ車ひくに車をもましに船の男

塚原 真

苗代の経ひの事とまつ御を博ゆやう候すいが

益 全

持うちもと北國の船の男がまうと船よつて苗代

新庄 杉 壽直

常引の脚の並よりひく坐 苗代ともとくかる

東奥 仲 其

源とを苗代小國の時やう事もひらめのどもまづ

其 遊

苗代のもとまひく幾の男をつゝく経ひまくねども

守 杉

立川 游矢と村の苗代のかへむきに持主ふく

黒羽 酒

猪の男ハうとう月のひうをひく代を引うけくわう

近道

丁寧よとせバ海りく首高と隊の経どもあらう苗代

大田原 水戸

苗代と猪の支拂が力あく解りも湯をうなぐ

秋 豆

萬研因とひきあれをぬくぬく身を付かとぞ御をゆうて苗代

辻田 小屋鋪

の海のえきみくを苗代のよう外 あくと経みをよせ

藤井 仲

萍の根とし縁とくわ所ふきまくおゆく苗代の頃

三浦 五徳亭

苗代のあうけ海のとくもむハがと年貞もあくかえん

十住 盛岡

せきふくわくのうれじ海うねりとくわくの猪の苗代

馬 九

種もが軍をせしと苗代へ車がうとせよとせせり

全 美豆保

苗代のあふうせしと苗代を辛とまゆる達あやせん

名古屋延

猪のうきはくも苗代ち作天おふまくとし初經 真守

良 成 人 長 芳 馬

前稿 室田 暗記

苗代よりしむらと引ひてひられを守ひておる。真鬼
猪の山の邊の水を堰み、營み、柳とあれば苗代今井
秋田へあれかしむらふきとほくよくむく苗代の水全
苗代ふせ井は清水かけの車ひそくぬるうゑを
苗代又壁ぬりまくはまゆどくと年あるもや結合甲府
苗代をもととほづふどうのまこと秋もせん
苗代又八十八枚りひづきとまつらをとらすれど
それかくおはなめとが里と引あそぶる勝が苗代吉田
林つまくも高木小檜もも鶴羽根のちゆゆを
引年れ銀河のとも苗代のも風ふきをまくに檜等白川
苗代の壁も董もおまくと一粒落とせ。經とまく
上達を苗代小田が引れてお教のあまき入刀根川松本新田
自慢のくじくも田へおまけばりとせどくもせが苗代長岡
田長もが苗代をさげあひて極不善す檜つらとすらを庄内
田長もが苗代をさげあひて極不善す檜つらとすらを元
苗代ふ竹野曲そ著よりむかるのみせとば經をも小内勝
牛事秋の縮ふ袖絹やまほん苗代もとまく引つ甲府
苗代よ物のひせられがよりも引ひげらきぬ後が争ひ諫方
井のまこと不形不改まうあ代やまく首兵経をまくらん
まほくものまほのまほれれ法を亮あらぐの田井不經也せす式部
笠川ときのの田井せまく常がまくせす苗代の源連鹿敷文
か笠川のまほもくらぐる苗代はやらむるやん吉田
苗代をくわゆせまく承をもむどまほの経をひす
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん水戸
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん富津
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん松
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん俊
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん内
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん直
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん真
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん成
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん光
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん女
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん风
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん守
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん覚
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん波
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん守
経共に秋を袖浪のまくまと苗代小田やまくせん守

草の子まで脇をもつて苗代をもとまく

全

大をかぶる者をねつて娘男ハ苗代もとめありばかり

全

苗代は經年たゞすと身をもむ仕事の原ふむづかし

全

角力より強むち儀をつまむて身せきに入る小田の苗代

廣

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

山形 千喜雄
角力より強むち儀をつまむて身せきに入る小田の苗代

廣

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

山形 千喜雄
苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

山形 千喜雄
苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

廣

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

貴

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

海

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

市

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

住

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

晴

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

俊

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

善

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

直

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

繁

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

則

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

春

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

新

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

良

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

福

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

村

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

鷺

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

丸

苗代のひまを徳とあらざれに情のうむは極ふす。まを

雲

上

要

月

友

生の事は常に人間が其の事に起り人
事の事は常に人間が其の事に成り市吹
一の事は常に人間が其の事に成り真川
初の事は常に人間が其の事に成り醉仙樓
一の事は常に人間が其の事に成り仙基島道
第一の事は常に人間が其の事に成り信義
第一の事は常に人間が其の事に成り岩城浪女
第一の事は常に人間が其の事に成り柔折波
第一の事は常に人間が其の事に成り薄墨
第一の事は常に人間が其の事に成り金後
第一の事は常に人間が其の事に成り大坂不美人
第一の事は常に人間が其の事に成り稻荷山宣
第一の事は常に人間が其の事に成り新庄繁樹
第一の事は常に人間が其の事に成り福島恒產
第一の事は常に人間が其の事に成り岐阜真竹

二二

第一の事は常に人間が其の事に成り仙基
第一の事は常に人間が其の事に成り小飯
第一の事は常に人間が其の事に成り大園
第一の事は常に人間が其の事に成り教成
第一の事は常に人間が其の事に成り岡田景山
第一の事は常に人間が其の事に成り大野山
第一の事は常に人間が其の事に成り不置堂
第一の事は常に人間が其の事に成り盛岡住
第一の事は常に人間が其の事に成り甲斐久賀
第一の事は常に人間が其の事に成り名古屋真辰
第一の事は常に人間が其の事に成り依藤長出
第一の事は常に人間が其の事に成り生盛向
第一の事は常に人間が其の事に成り大内色道

二

高加

長岡

入

かふつ秋萬へひまむか董子つてのとては筆考の生贋
勝船の敵あられへをきくらを延すす董子つて那

水戸

片倉

常

一板もつてど董子の筆つき董子の手稿のかじ比羅

瀬谷

川

入

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水戸

磯邊

年

久

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

豊

唐

常

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

片倉

川

入

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

瀬谷

川

入

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水戸

磯邊

年

久

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

甲府

萬象

全

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水

凹

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

甲府

萬象

全

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水

芳

貞

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

甲府

萬象

全

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水

芳

貞

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水

芳

貞

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水

芳

貞

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

水

芳

貞

董子の筆をもつて董子の筆あつて董子の筆

文

雄

影

丸

甲府

二

水

垣

杜若

波那細

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

島人

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

枝成

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

千住

仁熊

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

東太夫

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

市川

真河

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

村

岩城
真酒躬

度の便ハ度也と云ふとがて人をもむる者もあらう

笠間
市川
芳

さういき御のまうれその中ふぞくへておもひておもえぬ

寝上
名古屋

はまく化形のまうハ枝も根も表すまく枝もうめ川

市川
真

ううき枝も葉も花も草もどぞもがれておぼゆる

河文

枝ねがまの枝ねやう根ねがう根ね表す例の枝ねあと

全
鬼

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

庄内
真

枝ねがまの枝ねやう根ねがう根ね表す例の枝ねあと

青梅
喜代住

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

全
盛

枝ねがまの枝ねやう根ねがう根ね表す例の枝ねあと

鬼

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

喜代住

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

岩城
長岡

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

水戸
幸

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

竹
秀

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

鶴

蓮つゝも湯よもぬ枝ねあらわせうすすくとけと

金

賤の女も少ぬの娘とまうがうこれどよされぬあらわ

春

漕もくにぬのまうハ業せ假物まうとる枝ね

岐阜

業のまもほうとく湯る時とまうやもあらわる枝ね

白川

業と白うと組とあたのと白うと業とあらわる枝ね

水戸

枝ねのまくハう移ふらひゆのまうとめむ芳男

仙臺

業のりうとまくかれど松がくわいとまのまく枝ね

春

業のゆうと達とあらわし業とまく枝ね

大山

業のゆうと達とあらわし業とまく枝ね

栗法師

業のゆうと達とあらわし業とまく枝ね

甲府

業のゆうと達とあらわし業とまく枝ね

近

南

業のゆうと達とあらわし業とまく枝ね

友俊

守野春

山形

葉のあらわすやうやうをひくはひる庵がひの枝あつて
修むのせばひやうなむけむけのうみとさへも残せん
ゆゑにむづきのうみをまへて、草深木一枚残さぬとて
枝のまゝやうりのうみの香あつて、おとし人ふもざれす

もよもよと空を枝ふるえがふしきとて、ハ根疊あつて、
木の香多ひもとくすりとすりとすりとすりとすりとすり

今井丘

松新田

甲府

宜

全

三千唐

小平

片倉

常

万喜馬

千金

照道

三千唐

小平

賀多丸

片倉

常

川由喜丸

川名

米

佐倉

真素

瓜樽の形とあらう一筋やまか二八のかくよあらう
葉代ほもうびうけー枝あつとうつてくえあは樽
をうるつめぐれるゆうむまつてひきよてく觀ふきりま
枝の活れく年々三の御のハ樽やまー透船うか
枝あかくみまきとわかられてやどてひまむとあらん

佐倉
入

真素

藤

波那細

葉のあらわすやうやうをひくはひる庵がひの枝あつて
裏微加花三
裏微加花二

島人

蓑荷月美都

直

はういだゆううそと初一葉代あくとくねみのまじ
裏微加花一
裏微加花二

眞似子

成

ゆうの庭のうり橋はくへんくにえのまじきうに
まくのあらわすやうやうの脚の脚足すれあつね
水武

小町

秋津

升

升

三浦

高嶺の雲を夢うハ多へてのぞむはりとせぬあや恋のあづと

松風ふさぐかぐくちうとこ着とのにく恋のあづと

涙をやくまをへての情もかうとけのあよハ此を多波

波のよる身の行持ばかりとハ漏音すむれの波のよる身の葉

月夜の歌のともる梢うすすむれ波のあづと

まき草をかみ一夢のうあひとよぬ、落葉の歌

ちゆとまの陸れ風とよく重へせと夏のう波

松かわく桜かくさくのうれとおとく君やらん

春闌の歌をせどと葉のうかうぬ、君の花びと

引きあ枝かくぐくとれば、やさすうれの夏のう波

笑の波底さん白く多枝ハ、あくとまえ能ともえさう

君枝のあ形やうなハ新うるみのうきとされざう

四
二四

波の水たれとくいのねり入へ白せりのあらハつ葉

紫葉の深あそきとしの扇ハ松とくともえくぬきとれ

目妙加花二 桂枝不香くとも花波と海君とく君のあうつらと

が子すがくごひ聲やくとく松丈せよとく君のあづと

まく枝の行すとつむたハ、生波のうれぬうとわるんせり

山の隠とくよとれども君のうえをくまくおのふらと

つひくとくかくとくくとくの木とおもはずくまく君の歌

吉原 今保 唐 光 真 喜

仙臺

新庄

百合丸

印西

苗子

山

波のうづみをさげば、あづとくくとくの木とおもはずくまく君のあづと

波のうづみをさげば、あづとくくとくの木とおもはずくまく君のあづと

水戸 長 喜 光 真 喜

根成史留直成名

室田 宮上

桑折 繁

神代 歌

新庄 寿

仙臺 文

千住 美豆保

笠間 仲

柔折 久

甲府 唐

花のうづみをさげば、あづとくくとくの木とおもはずくまく君のあづと

萬事馬 松 俊

風がすまく秋波さりまをあつぐふよけひの葉の葉

真門
藏前

葉のうふとすくつれかとつまみねむる葉を恨み

若山
理家

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

高成
信木島青改

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

下美
長岡

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

全愛
花

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

丸虎九
竹住

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

青梅
松代

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

長鳴海
岩城

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

金酒躬
戸塚

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

嘉年子

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

半田菊
桑折

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

廣主
金鷹

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

水戸蘿
良

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

新庄文
成材

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

洲長鳥
成材

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

半田鶴
良

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

水戸良
成材

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

新庄文
成材

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

水沼實
千惠丸

葉をぬる波とすくばりと相不ほよふ葉乃を

笠松山
園

ゆのそそがめと筋を取どもとえみびれすも多のむく

桑折

業と行ふまさんと薦うつて自慢はもれずさうぞなり

笠間山

桂の木移へあら一月ふもと喜ととまざりてまく

井尻

時とぬるるるるねのふ席よまざくかくもふ薦

藤木

夏板とくされば婦よ業とあふも雲の被ひけりそ

市川

ひよこまきん漏れうぬぬむじの波よおの波

新庄

よもわざとまくとまくとまくとまくとまくとまく

溜

車傍のねの移ふとまくとまくとまくとまくとまく

一関直

どくふあるわ列ゆくまくとまくとまくとまくとまく

盛岡

肩のま縁ゆとまくとまくとまくとまくとまくとまく

市川

ねの移ふとまくとまくとまくとまくとまくとまく

實

かづきの移ふわくとまくとまくとまくとまくとまく

春

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

吉浦

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

賓

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

請

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

河清

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

常道

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

全

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

益

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

全

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

守

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

全

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

真守

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

伏黒

松本新田

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

蔭

保高

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

泉

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

庄内

元

李

廣

鬼

川

尾

桑名

由

峯

尾

あくとわくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

駿府

直

古

これも又かうりあまとひをかねてゆるねの邊の山房 松重
猿されどおのづかと御の多くあらじようむきあじ 朱人
さくのあはりくあがるはゆのかことあうじゆき 上田
御まよつれあらにんすみのゆめをあそぶとる松根 信八
葉のゆく極へ竿のとかけよ神のゆめ 猿川 菩提 千井
唐実のゆめをねむ松神とえぞとおれるゆめあがと
まきはまきまきの二のひみをうけし猿川 菩提 善若
やうまき力めねばせきのまほで花とおとてよく
紫の葉あわせしやえとくやえとくえんまつひよ
樹へあひ揚き風ふきあふゆどく風のうつまく候
のうねるあひ風をつうあればねの宿ふかくを波 川船
りあへてぐらりくとくくまほの隣りよせひよし
紫の葉あわきよ瀬あへてうへそざくまくとくまく瀬 法尊 小山 歌都美
さがむ若生ふねがねふとく霞ハ壁の儀とえあひゆき 入舟人
本あらかむむひとあれときひう吹くとぞまきのゆ 全
糸のむく生きの葉工舞の牛きよとくられきよ 東太夫
男根肩ふくりと葉あせ松多ふきよとみのあら房 岡部
おふくき岩根のむの霞波のやとくもや簞がみかん ^{三晴} 松古
吹むきおれまようとげハ松経のまよ葉のあひと 全 芳
向ふまどくぬねの様すとひてうひて湯の霞波 盛益
あまのへと歌とせくらひでみかは枝ふ葉のゆの霞波 市住

山吹

波那袖
泣く程とそれぬゆくかべども不あはず里乃ひ吹 真似子
まゆせてもゆかへてだ無く涙のあらうねしよ 大勝
裏做加花三
くすみのゆめく黄さぶかうぬは御扇のゆづゆ吹のゆ 新庄
新庄
裏做加花二
かひのうりじあふ葉もあづみもせんせんせんせんせん人 駿府
新庄
新庄
波人ひか限りハスダルーとわれくそをあか一升のゆ吹 直古
もみや莫モ水車不聲の風ハきのどううかきのゆ 川常

物とあらわすと深き縁りよせわまる山吹の枝

山形

裏板

藤子

山吹さきのとくわせ物やくすまふかども依然かゆま

氣仙沼

ともとあらぬからと歎のゆゑすまふをりん

貞

経冊のうえつゝとみゆかはのまくぬまくは往もれどく

松代

あ底ふえあるもあはれまくはむくのむかたるの山吹

東上

つゝぬる世を思ひくわまくれどものむれら吹のむ

秋

山吹のあせくまくはくらむれどこれももの山吹のむ川

新庄

似ゑのま西日をあく山吹ハ吹のぬ柳のつるやわん

水

あはくわくやくもぐくわくもぐくわくく煙のあはん

笠松

山吹のあらこどものあはくうさううか煙のようどうす

市川

うきくわくわくのあはく山吹やくののゆふ香のゆす

常道

白いとさくらあそせうくさくまくへく風のゆ

東

ら花のあはく妹よ物のとくまくわのまくせん

庄内

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

会津

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

貫戸丸

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

吾

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

丸

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

季

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

雄

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

里

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

元

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

草加春

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

歌志久

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

石和里

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

川谷

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

梅

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

名古屋

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

福島

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

梅

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

弘

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

方

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

盛

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

安

かくざくわくをまく葉金とまくねが後まくぬの吹あれ

雄

吉田元衣改照

花路のまへと一へ事の河川これも嫁背のつねづね

つねづねをちよゆのまごとくとや帰つてくせんじゆ

梨新田

駒人

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

吉成

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

牧布

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

笠間

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

真行

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

長竹

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

晴俊

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

亀

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

成

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

盛

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

成

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

成

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

也

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

人

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

成

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

空

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

電

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

半田

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

篠原

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

行

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

藏

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

野辺

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

成

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

富貴

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

長岡

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

春

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

住

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

市川

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

河

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

也

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

見際

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

歌志人

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

麻生

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

青梅

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

元九

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

小町

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

讓

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

見際

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

悟風

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

主

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

薄墨

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

清音

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

新左

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

美舟

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

色音

のまへとまごとくとや帰つてくせんじゆ

真根人

山の音の聲不る事かかへぬとやもかくも葉がれ見

岐阜駄山人

仙臺

さねふを續せば女の方の聲うつてくら吹乃き

大園

ちをひそむすばどりてうゑあがぬ面を出前うらひゆを

比左志

物をぬあひ重とまじてふんふとまくを鹿乃ふ吹

蒲夜

ひづきでもまよひのむじにゆめをぬあすかべ

石

宇治川の聲ふを津波かわらかだをえかぬ音の山吹

小屋裏

物の音とあひゆきうれむと山吹

近

を山月の白雲振ゆまくと山吹

名吉屋

山吹の山とての不意津波を驚か白いのむ

山形

フ段とせハ情もまき川今ハ英重をあすら吹

甲府

をあ女の聲あまくハ英重をうる山吹のむ

春米

山吹の聲れうと千金のまことを愛くやううとぞ

廣

山吹の白もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

吉田道守改

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

恒雄

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

松本新苗

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

庄内

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

成

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

山外

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

岐阜

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

土呂

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

富津

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

松

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

真影

山吹の聲もあるとよも入のことをねむく跡の聲入り

水也

うふと神へまさんらぬのむろておひやくわづく

麻生
董

西のきるがのあやめ風すらやく黄葉のさかに

千住
朱

おもバ御の面をへどもあらがまん寺の山吹

金
市

駒馬もあらがまん寺の山吹

草加
市

駒馬の駒馬の山吹

身延
山

もも駒の駒の山吹

少波
直

もも駒の駒の山吹

三崎
大山

もも駒の駒の山吹

芳
山形

もも駒の駒の山吹

好
本

もも駒の駒の山吹

好
全

もも駒の駒の山吹

日久美
全

三月盡

裏機加花三

三月盡

やがてのむかの私を限らざりと絶ちゆる神とあらまく

岩城
暖

やがてのむかの私を限らざりと今またの限らざり

水戸
春

性がどもまの限らざりの私を限らざりと今またの限らざり

佐倉
片川

ゆうきのゆのゆもあれやぢみる爲の限らざりと今またの限らざり

仁熊
長行

ゆうきのゆのゆもあれやぢみる爲の限らざりと今またの限らざり

半田
真富貴

ゆうきのゆのゆもあれやぢと後す年既休き納めや去のゆうき

岩城
真酒躬

ゆうきのゆのゆもあれやぢと後す年既休き納めや去のゆうき

半田
貴九

ゆうきのゆのゆもあれやぢと後す年既休き納めや去のゆうき

新庄
良村

ゆうきのゆのゆもあれやぢと後す年既休き納めや去のゆうき

美舟

東奥道

立のまのむハかどもニキヌモ不むとひ、湯るまの日も
ゆくまを惜むのゆきよ今もうるまのつべありに

京 真恵美

タハ終うれひがまぬ御朱のりうとあひて惜しもうね 和田 蕪生法师

ゆくまよおの旅とひじとか月八日のまちにこそ 柿人

ゆくまをまことふうもあうるをあひ海ハ干渴れども 良 村

足下うへひかぶちくやくまのうしうそづくかへおの達 謙清

まはあごをくハやく逃げよまざれふさくまをあす 甲府 春

駒もまくまづやくまうとあひしまく松のあふつかぐとも 全

せたもてしたかの火を焚て富木納くまと送らう 富津 春

この駒の松の煙を破りゆくまをとめくまう 千代丸

機もうのゆうりうあひとあひくまもあくまう 千代丸

むくまとくせん人までとまきもふかくまハ吹き 岡部 宋

機もうのゆうりうあひとあひくまもあくまう 千代丸

むくまもえん少神のうりあひとあひくまく惜む常吉

むくまもえん少神のうりあひとあひくまく惜む常吉

むくまもえん少神のうりあひとあひくまく惜む常吉

むくまのまのまがくまく惜むと惜むあくまく惜み 島人

まくまのまのまがくまく惜むと惜むあくまく惜み 島人

あらわすもあくまく物がめんど情りをまへきふるをゆく

小舟山

中空をもあとのよやくとこゑえをはとくれもせす

麻秋

のうめをあけし壁の縁れすもあひどく不まゆゆく

歌志久

作爲ゆき事のれきとくまのくやうの隣

越河

そとあくまくさんせすくまのゆくを残

駿府

まもあひあせひまむと限るとまゆゆく

宣

ゆくまのまのれを残してあくされて拂て拂の私

駿

すとまもあひまくはまかくまくまのゆくを残

駿

やくまのカツシキをゆくと拂のり私をりうむきぬ

駿

三毛のあひあひまくはまかくまのゆくを残

駿

ゆくまのまのれを残してあくされて拂のり私をりうむきぬ

駿

波那細

樊於期

樊於期

樊於期

樊於期

裏微加花三

裏微加花三

裏微加花三

裏微加花三

唐人

唐人

唐人

唐人

唐人

唐人

唐人

象柴
象柴
象柴
象柴
象柴
象柴
象柴
象柴
象柴
象柴

新庄

裏微
裏微
裏微
裏微
裏微
裏微
裏微
裏微
裏微
裏微

大坂

萬
萬
萬
萬
萬
萬
萬
萬
萬
萬

真

松
松
松
松
松
松
松
松
松
松

草加

千佳
千佳
千佳
千佳
千佳
千佳
千佳
千佳
千佳
千佳

街

早
早
早
早
早
早
早
早
早
早

市川

石
石
石
石
石
石
石
石
石
石

水壇

市川
市川
市川
市川
市川
市川
市川
市川
市川
市川

水

武
武
武
武
武
武
武
武
武
武

小町

琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴
琴富貴

岩城

戸家
戸家
戸家
戸家
戸家
戸家
戸家
戸家
戸家
戸家

真幸

真幸
真幸
真幸
真幸
真幸
真幸
真幸
真幸
真幸
真幸

史

双二三十四

丸依綱廣廣廣廣廣廣廣廣廣廣

新庄

金十慶

全三千春

宇都宮

持羽天童

坂阜

高百合丸

三浦繁門

成根安

印西

庄内

信夫真

天神林

高百合丸

成根安

裏微加花二

仙宮

達人不惣とどれ一もの所ハ五事もがき新やうん

千住
狸家

不都門長生角と達多べ者るゆ人アラクルニモ
裏微加花ニ

片倉
高川

湯源の門馬脇の拂ひもされとくへ達もあくぬ仙宮

真門
森薄

圓谷其茎とえくの國すかとばうとどつまみ斧也白人

白川
月折

月あふらどめぎやを銀を風ト勢の拂ひ仙人

白川
月折

人の経象ハミシ於ちくのあひでめぞ見階あが

山口
山

楊の圓ももか仙人の圓茎こうすと年を達也

川
船

生葉こらとみの網戸根圓う月の前のくも

善直
川

竹人之あるとくの者うとさびけり此楊の中

全
石

日加花ニ仲人之鶴子を多くのあもわうりのとくふあぐん

松代
藤

日加花ニふとあうの鶴ハ毛代と經を改めりとすもれある

仙人
藏

日加花ニあうとあう事とハくのとくとすもれある

春
千

日加花ニあうとあう事とハくのとくとすもれある

長崎
市川

日加花ニあうとあう事とハくのとくとすもれある

庄内
金

日加花ニあうとあう事とハくのとくとすもれある

川保
金

日加花ニあうとあう事とハくのとくとすもれある

真
杉

日加花ニあうとあう事とハくのとくとすもれある

三羽
井丸

金とバ革方代と折へてあるきがまうへうる 鳥柴
ほの枝事ドハまれど内ノ井ともぞうた三毛せのひ 松俊

仙人のりとせよ基ハるすどもせせらむともすやん 福養
御とゆくとものう遠入かばまびせふハ艸んとがリ 開埴

七夜

ひやまちもかくてセ松林の宿のまぐら草、どやくらうる 真亀

裏機

物のねとお根ハ青、グ物のモモツ木もれ樹もれ葉もれとみ 市川

真

佛とて見まもの松せとくのまくらす母もくらとを又 岩城

暖

春湯とてつりか御教わる者やおまとくふめでるを 三羽

九

河

丸

羽

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

河

丸

月如
家の柄のわゝとあふる事とて、其の間禁とす。 市川
事御とばゑし照らる事とて、かゝる事不葉あざでる。 松代
貴ひハ弟小ちにうけく様とば陰をうちやつれりとて 桑代
あゝの弟セラリヤスリと行ふ間とまのうのうる。 甲冑
あゝとまハ弟のやうくはあの一内そりの事とて、庄内
義代とくせんを経入むりくじりてうけある物のまく 和田
あらとまハ弟の七次ハ白影とくふきとまくぬくとて 上田
あらとまよの物とをめぐれ、其の神の御りゆくも 片倉
其のとを花ふまきのまくと拂のよとくやねの縁す 凹
其のとを花ふまきのまくと拂のよとくやねの縁す 全
其のとを花ふまきのまくと拂のよとくやねの縁す 美豆保

多代とつむ歎ハモヒ寛葉ホシ稱ム八十の歳より

石綱

おもゆひ白髮た根もまじめのまほあの方もよどむ
裏微加花 白川

白くやの人にゆかり柿の木を西門ふねばまき

万吏馬

裏微加花 三浦御ふかうまで源よそ千や八十の年りせねうも

折鶴

くわへ生ぐき數とこそてつ枝ハ柳の枝のうぶさあり名古屋

香久美

目微加花 一葉の聲ふあらまくべーやすとほぎのむろう笑まぞ

水戸永

目微加花 月見トハ種れハむづぎの夜ひ枝のうそよつゝりし

鳴音

身ごくや老が聲のちくわからぬ結縁をあとゆれり

伏黒竹

目微加花 おのの隣ハはくともまくじ徳とまくわが年も代とりむりくさ

蔵前皆

る年あがむびやくもむの九十九年一枝の

長岡吹

七十年以上八十あり神の多と壽くよしの隣も

松代美

君も又これかあくとぞのちひも代へ一枝の白ふまく

岩城真酒躬

ひゆくもる節も緋をあが代ハ里あかくもぬりあ

染折見

ヒ十の年をあがめどもかぶみ年方代年やつりん

詰

まことうを歌ひ歌ひ歌ひ歌ひはれてまちほ代をやま

東興仲道

勢もひひきもかく一かきの波すハやまと初むの枝

福島清人

かづ枝強えち徳より得ることもぞうみのれとうば

大田原景山

つみふ稀ある年をうみづとくまきのまくわの枝の枝

三浦五德亭

うれも枝うつみハ若ませで弱きとくも人のみどれ

盛岡實来

うすへの吹く跡う跡う跡うみ年せうかそんへとく

諏方高根

枝く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

安原常豊

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

入山

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

高根

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

入山

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

草加早九

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

長岡常豊

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

入山

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

庄内吾

持く歌く枝と歌く歌くみ年せうかそんへとく

入山

元服

裏微加花

草加早九

裏微加花

長岡常豊

裏微加花

入山

裏微加花

草加常豊

裏微加花

入山

至ちの處に之を後ひ奉男えればまのう思あれり 市住

アモドモとおへあぐき神ミタマもどめと仰アシテるの事あれり

嘉詞子

日娘ヒメコトハ一白雲シロクモあせらをなほひてえ波ハおだうめオダウメたあせのした 升成

波ハ静シタマツか思スルみを波ハおなはオナハとあせのしたアセノシタの男ヒトをあ

葉廣

あせアセを絶ゼルふえ波ハおなはオナハとくらクラくらクラやまのをと

技成

勝ハ能ハシメルわざとて張ハサウた後ハシメルのもの術ハシメルと絶ゼルふえ波ハ

麟馬

百波ハのあと野ハシメルとあらうとまのくわと絶ゼルふえ波ハ

浅波庵

初ハ行ハシメルとくらクラの鳥トリ幅ハタと魚カサハのうらウラとくらクラひより

譲方金家

三波ハのけかハシメルふそくフソクうせ類ヒトツも男ヒトツのねネつともそへば

片倉常

司ハシメルやる氣ヒツジもひづきぬの宝ハシメルの今ハシメル身ヒトツ初ハシメルえ絶ゼルす

凹

あとほめハシメルと身ヒトツ初ハシメルと湯ハシメルうよりと身ヒトツの齒ハシメルもとくらクラに

三羽

鳥トリの波ハシメル葉ハシメルかの初ハシメルえ絶ゼルのかハシメルとむとくらクラに

三晴芳

世ハシメルのへせ薄ハシメルあれと身ヒトツの見ハシメル初ハシメル代ハシメルの十五ハシメル程ハシメルもむ

近湖風

萍

裏ハシメル加ハシメル三

京 真恵美

底ハシメルある二階ハシメル川ハシメルの萍ハシメルと見ハシメルのうきハシメルとふつハシメルらん

羽黒山 加登梨

波ハシメルの豆ハシメルふりハシメルと波ハシメルの豆ハシメルのうきハシメルと世ハシメルと浮ハシメルる

水彦

福ハシメルふくハシメルと波ハシメルの豆ハシメルと萍ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

伊戸塘

裏ハシメル波ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

小田原

波ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

新庄繁

波ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

井服

萍ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

人

波ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

藤井厚房

波ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

光貞

波ハシメルの豆ハシメルと波ハシメルの豆ハシメルとくらクラと別ハシメル深ハシメルえん

厚房

昔一あくまくみかわき岸もこのゆゑふうれゆる

千住 熊

ね事あくまくとくらまへかから川も玉鶴巣のちひしけど

雄

やくもん根をもととくらまくらめぬふむれゆる地の邊す

石

篠

波那細

今人きよが鶴あまとひまゆび牛煙拂ふ鞠ふの世

吉原 大

裏微加花三

戸隠の山隠の山おまきをあきへゆかへとすもえ

松代 千

裏微

強人ふたとよかよまきをよまくとて風のよこ

半田 市川

ゆめをゆと定とひづればつみの毎日をとびとび

大山 真河

萍すくねをすとももまほれまほりやせの毎日

大坂 菊

目妙加花二

波のゆれとひせきと發ぐありこれや乳達ひのま

赤井 春

目妙加花一

経過ぶ人のゆきと内がやびとてゆきのあたさま

高畠 水

聞かば花のまよもくとまよひばとよもとよも

仙臺 歌沙丸

日妙加花の徳みの林さはげハきりとよもとよもの

仙臺 文

掲きよきよみを死とぞ引と風流ぎりあひのよふ

東奥 仲道

おとふをのゆくわせ川のけくとくとくのゆくわせ川の風

仙臺 真根入

まゆの日ゆをくまよ拂ゆる月日ハまよくみお盆教の身

柔折 山文

湯あくねを湯か入がんかくが御をまよひとすとす

庄内 二色

凡うけばとくめハとくとく勑とくともくる毎のよゑ

真 亀

まよゆくき鶯の衣われど絶えどやだくとく毎のよゑ

松成 松成

みのゆくやくのくとくのくとくハむじとくもゆき奇異物

開垣 好

神

裏微

きよかくよのくれハ多と家樂をすとスカウル神奈

小田原 岩城

神奈のくわくとせーへんむ拂ふぬかく一世のあうべー

気仙 暖

湯の移ふがくくとせーへんむ拂ふぬかく一世のあうべー

金剛 歌

も優木のきのまきを花絛あわせおとこぐくと
神奈

甲府 仲

神奈バ湯本とぞやせりまやま拂ふさぐむかのいたと
夜あくの夜ゆ度まとみのん後すくふさる神奈

久 唐

四二三十九

ゆきのまわうのうれ柿葉はまくかままであざり会う
拂ふる印月ハリハアまたち遠さうな秋のあつと 全千佳 東太夫

桂

裏微 ちゆう医のわふらひる桂枝湯家の風をそよぎを拂へり
庄内 水 まけう風のまことの桂枝湯の桂枝の枝をさげー
吾 桂 拙も一株の白髮うゑの三みみふ枝も桂も
片倉 川 美もあらううの桂樹の多桂うえのまも生じつる
吉仙沼 凹 日
吉原 貢 もあらう星の桂のやうえん圓もうし、日の桂木
吉原 貢 やあらう星の桂の奇をづれう根の中ある桂枝をて
桂木のうた根をさよ風を善とまればやくぬごうと
文雄

社

裏微 うやくのひいともれとそ猶をそめもへてじけり
新庄 水 湖裏微 あとの伸びみよとめくとめくさあほのまう
柔折 眉 祭ひひとひをほよ柳の枝をつゝもうりうと
文雄

目少加花

長崎

砂

庄内

文

日少加花

岩城

真酒躬

駿府

沙

日少加花

麻生

歌志久

訓

全

日少加花

貴人

人

会津

人

日少加花

鉢田

弓豆

九成

人

日少加花

香久美

人

人

日少加花

大

道

人

人

日少加花

庄内

二

色

日少加花

大

道

人

人

家金方 謙方
量新田 原原山 杉
持千施 卷牧布
草近山原 杉盛
佐全佳 神真
入船草早丸市住
顔真
住丸市
根很代行
佐草早
神真
佳全
山原 杉盛
佐全
神真
佳全
草早
市住
顔真

俳諧歌雙児百首二之卷終

三四一



第六方

家

